

# 鳥海山・飛鳥ジオパーク

## ユネスコ世界ジオパーク認定へ向けて!



左より オンラインプレゼンテーションに臨む市川にかほ市長、湊由利本荘市長、丸山酒田市長、池田遊佐副町長 会場：にかほ市役所象潟庁舎

### ジオパークはどのようにして生まれたのか

ジオパークは、今から20年ほど前に生まれた自然保護プログラムです。化石や岩石、鉱物の破壊・盗掘を防ぐだけでなく、大地の上で繰り返される紛争をやめさせたい、と、本気で考えた地質学者や政治家たちがジオパークプログラムの基礎を創りました。活動の輪はジオパークの考え方に賛同した人たちに広がり、今ではユネスコが認める世界的なプログラムへと発展しています。

### 鳥海山・飛鳥ジオパークで叶える理想のふるさとの姿

冬、日本海からは冷たい季節風が吹き付け続けます。大量の水蒸気を含んだ雲が鳥海山にぶつかり、大量の雪がもたらされます。地球上の同じ緯度で、これほど大量の雪が降るのは、日本列島の日本海側だけです。時に私たちを悩ませるこの雪は豊富な水をもたらす、その水が私たちの生活を支えます。私たちを支える水は、世界にこの場所にしかない、鳥海山の存在なくしては得られないものです。

にかほ、由利本荘、遊佐、酒田、飛鳥。このエリアは、未来に伝える価値を持つ見どころであふれています。人々が暮らし続ける社会をつくり、そこに暮らす人々の手で、人が創ってきたものと地球が造ってきたものを守り続ける。これが、ユネスコ世界ジオパークが目指すふるさとの姿です。



鳥海山・飛鳥ジオパーク主任研究員 大野 希一

### ユネスコ世界ジオパークに聞く /

## 世界認定を受けて地域はどう変わった?

●洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会/事務局次長

加賀谷 にれ  
Nire Kagaya



私はジオパークを「つなげる活動」と考えています。ジオパークは大地を通じて人の暮らしと環境をつなげ、過去・現在・未来をもつなげます。また、分野を越えて人と人もつながります。ユネスコ世界ジオパークではこのつながりがさらに広がり、大都市を介さずに「ローカル同士」で世界とつながる中で見つかる可能性を生かすことができます。

●室戸ジオパーク推進協議会 国際交流専門員

小笠原 翼  
Tsubasa Ogasawara



「室戸には何も無い」と思われていた中での世界認定は、生まれ育った郷土とそこに住む自分たち自身の誇りを醸成しました。認定から10年経った今、世界ジオパークネットワークを活用した教育活動を教育委員会と連携し展開中です。室戸の子どもたちはジオパークを利用し、室戸にしながら世界を広げています。「ジオパークだから地元でできることがある」と、意志を持って地元進学を選ぶ生徒も増えていきます。その変化は地域の大人にも広がり、「ジオパークは認定によって町が栄えるうちの小櫃ではない。活用してなんぼ」という意識が高まっています。

●鳥原半島ユネスコ世界ジオパークガイドの会/会長

永田 ゆき子  
Yukiko Nagata



子どもたちに、自分の住んでいるところは世界が認めたジオパークだと伝えることができ、誇りに思ってもらえます。世界中の人々が、お互いを尊重し認め合うのがユネスコ世界ジオパークの素晴らしさ。研究者も行政も市民も手を携えて、地球の宝やそれを受け継ぐ子どもたちを見守ります。国境も言葉の壁もない地球人「Geopark is human」これはユネスコの審査員からいただいた言葉です。仲間になったことで私たちの世界が広がっていくのを感じます。

## APGNアジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムに参加しました



民族衣装で出迎えてくれた地元の方々



ユネスコ世界ジオパークの認定証を手にする各地の代表者

9月、アジア各地にあるユネスコ世界ジオパークが集うAPGNアジア太平洋ジオパークネットワークシンポジウムが開催されました。会場となったタイのサトゥーンにはタイ、インドネシア、マレーシア、ベトナムなどの東南アジアや中国、日本、オーストラリアから約450人のジオパーク関係者が集いました。ユネスコの正式事業であるジオパークは世界48か国183箇所に存在します。国境や言語の壁を越えて交流したり、それぞれの地域での活動を学びあい、地球規模の保全活動を行なうネットワークを築いています。現在、日本ジオパークに認定されている鳥海山・飛鳥ジオパークでは、ユネスコ世界ジオパークの認定に向けて取り組みを始めています。今回のAPGNへの参加は、世界に対して私たちの存在をアピールする初めての機会となりました。大会で行ったプレゼンテーションでは、にかほ市の九十九島における地質的価値の保全とそこで行われる産業振興のための基盤整備の取り組みについて紹介したほか、鳥海山・飛鳥ジオパークを構成する4市町の首長も参加し、各地の魅力を世界に発信しました。

### (一社)鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会会長 市川市長のコメント

国際会議という馴れない場で英語によるプレゼンテーションでしたが、地域の魅力を十分に伝えることができました。会議には、アジア各国のユネスコ世界ジオパークが集まりました。私たちは残念ながらオンライン参加でしたが、画面越しに世界の人々が集う熱い空気を感じることができました。私たち鳥海山・飛鳥ジオパークでは、このネットワークへの仲間入りを目指し、今後も邁進していきます。



地質サイトの1つ「Khao To Ngu」。古生代と中生代の地層が断層で接しています